いわき総合図書館　地域資料展示コーナー　平成 22 年度後期常設展示

いわき郷土研究の先駆者･諸根樟一と三猿文庫

今年、平成 22 年(2010)は、「三猿文庫」の諸橋元三郎が、郷土資料の収集を始めた大正 9 年(1920)から 90 年目にあたります。

文庫の資料は平の老舗「釜屋」の元三郎によって収集・保存されてきたものですが、文庫の胎動期に大きな影響を与えた人物に諸根樟一(もろね・しょういち)がいます。元三郎は諸根の郷土研究の活動に賛同し援助と支援を続けました。

後期常設展示では、諸根が発刊した郷土研究の出版物や新聞・雑誌などを展示し、その内容と三猿文庫との関わりを紹介します。

諸 根 樟 一　もろね･しょういち

諸根樟一(戸籍名は正一)は、明治 26 年(1893)に、当時の川部村大字沼部字宿(現在いわき市沼部町字宿)に生まれます。明治 40 年、村立小学校を一番で卒業しますが、家業の関係で上の学校へは進めず、早稲田工手学校で学び測量士を経て、大正 7 年（1918)、実家に戻り、大日本炭鉱に勤めます。大正 11 年、川部の青年たちを集めて、郷土を知り未来を切り開こうとする運動の「郷土自由学堂」という会をつくり、翌年 1 月に雑誌「郷土文化」を創刊しました。同じ頃、平町に引越し、大正 13 年（1924）には、生活の糧として自分の蔵書をならべて、古本屋「郷土社」を開店します。

諸根は、「郷土研究」の普及と賛同を得るために、雑誌「郷土文化」、研究雑誌「名古曾」、新聞「新いはき」をつくりますが、広がりは大きくはなりませんでした。諸根が設立した文化団体「郷土文化会」の会員となった三猿文庫の諸橋元三郎との出会いは、この頃でした。

「郷土史家」として諸根が認められるのが、昭和 2 年（1927）7 月に発行された『磐城文化史』からでした。翌 3 年 9 月には『磐城史料図版集成附磐城史概論』を刊行します。昭和 3 年 12 月 30 日、諸根に不運が襲います。家屋の類焼です。火災にて『福島県政治史(中)（下)』の原稿をはじめとする、未刊行の原稿を一瞬に失ったのです。救いは印刷所に入れていた原稿により『福島県政治史(上)』が昭和 4 年 4 月に、また、諸根の郷里の勿来庵にあった原稿により『綱要石城郡町村史』が昭和 4 年 10 月に刊行できたことです。

失意の中、昭和 5 年 2 月、諸根は、東京に引っ越します。その理由は、京文社に職を得たことと東京大学史料編纂所での史料の閲覧が自由になったことといわれています。地元いわきを離れた諸根でしたが、出版の大部分はいわき関係のものが占めていました。上京後は妻良子の名義で普及雑誌『勤王(後に勤皇と改題)』を定期的に発行しています。同誌の目的は「勤皇、崇祖の二大精神」の普及と調査記録の発表をあわせたものでした。

そして終戦、「在野の学者」諸根は、昭和 20 年(1945)10 月の『吉田松陰の東北遊歴論纂』の刊行を最後に、昭和 26 年、58 歳の生涯を終えます。

主 な 雑 誌 と 新 聞

■雑誌「郷土文化」　　大正 12 年(1923）1 月～

大正 12 年(1923）1 月、雑誌「郷土文化」が創刊されます。諸根は、「郷土自由教育の提唱」を載せ「郷土人を愛護せよ。郷土精神を拡充せよ。郷土人教育の根本を樹立せよ。林間アカデミー学派を創設せよ。」と主張します。

同誌は、毎月 1 回の発行、購読料前払いの同人制で出発しましたが、経済的に行き詰まります。その打開のため諸根は文化団体「郷土文化会」をつくり、教育者・実業家・政治家に会員になってもらい、「郷土文化」の継続に努めます。

「郷土文化」は、一時期、新聞「新いはき」の発行で休刊し、また再刊しますが、昭和 3 年(1928)1 月刊行の第 5 巻 1 月号の通巻 10 号で終刊になります。

■新聞「新いはき」　　大正 14 年(1925）12 月～

大正 14 年(1925）12 月、新聞「新いはき」が創刊されます。翌 15 年 5 月まで無料頒布で月 1 回の発行をしてきましたが、6 月の第 7 号からは、1 部 5 銭の有償にして月 3 回の発行に変えました。

また、これまで同紙の編集・印刷人は諸根本人でしたが、7 号からは、「常磐毎日」新聞の高木荷香を主幹に迎えて、建て直しを図ります。しかし、5 カ月後の 11 月 10 日、通巻 14 号で終刊になります。その要因は、諸根が雑誌「郷土文化」を再開するためでした。

■研究雑誌「名古曾」　　昭和 5 年(1930)1 月～

昭和 5 年(1930)1 月、研究雑誌「名古曾」が創刊されます。翌月に諸根一家は上京しますが、同誌の刊行は続けられました。昭和 6 年 1 月刊行の第 3 巻 1 号の通巻 7 号で終刊になります。主に諸根の研究の近況や中間報告、近刊の予告などが掲載されます。

また、宮武外骨と諸根の交流や、その影響からか「磐城地方に、郷土博物館を建設せよ。乃ち其の中に、磐城一切の過去と現在の物産、芸術を陳列する以外に郷土文化研究所を併設されたし」との提言や、「磐城文化に誇るもの二つあり、佑賢学舎の図書館と三猿文庫とである。」などが記されています。

■普及雑誌「勤王」　　昭和 12 年(1937)1 月～

昭和 12 年(1937)、諸根は日本勤王史学会をつくります。設立の目的は「（1）一般勤王史料の集撰。(2)吉野勤王史料及び遺蹟などの蒐集、保存、標識。(3)勤王思想の国家、国民に及ぼす之が影響の精神文化学的考察。」をすることでした。同年 11 月、同会の普及雑誌「勤王」が創刊されます。編集・発行・印刷人は、諸根の妻の良子でした。以後、約８年間「勤王」は続きます。(昭和１4 年２月より「勤皇」と改題)。昭和 19 年 4 月に第 8 巻 1 号の通巻 39 輯が刊行されますが、通巻 42 輯で終刊になります。

主 な 郷 土 出 版 物

■『磐城文化史』　昭和２年(1927)7 月

『磐城文化史』は、昭和２年(1927)7 月、平町の書店・清光堂(関内彦太郎)を発行元として刊行されます。それは、諸根 3 カ年がかりの執筆、石城郡(現在のいわき)の石器時代から明治・大正時代までの通史でした。定価４円５０銭。全国の取次は東京神田の京文社、福島県の取次は福島市の古今堂書店でした。

植村源太郎・水野虎三郎・星一・草野順平の序文、そして諸根の自序。本文は 441 頁。本文の構成は、第 1 編が総論、第 2 編が磐城史(旧磐城四郡史)、第 3 編が石城郡制度史(本邦の明治・大正史)となっています。

■『磐城史料図版集成附磐城史概論』　昭和３年(1928) 9 月

『磐城史料図版集成附磐城史概論』は、昭和 3 年(1928)9 月、平町の磐城佑賢学舎(大和田豊吉)を発行元として刊行されます。執筆者に、諸根の他に草野順平と諸橋元三郎が名を連ねます。跋文は大和田豊吉。本文は図版 80 頁と付録の「綱要磐城史概論」が 112 頁。図版の写真は白井遠平の伝記編纂で集めた中から使用されました。本書は非売品ですが、諸根に経済的余裕があるわけがなく、経費は諸橋元三郎が負担したと推測されます。

■『福島県政治史(上)』　昭和４年(1929) 4 月

『福島県政治史(上)』は、昭和 4 年(1929)4 月、福島県政治史刊行会から刊行されます。著作代表者に諸根が、そして草野順平と諸橋元三郎が名を連ねます。『磐城史料図版集成』もそうでしたが、実質は諸根一人の仕事でした。定価 7 円 50 銭の豪華本でしたが、元三郎の経費負担と本の買取りにより成り立ったものです。

田中義一・浜口雄幸・床次竹次郎の題字、八田宗吉・加勢清雄・平嶋松尾の序文。本文は 469 頁。本文の構成は、第 1 編が総論、第 2 編が第一期の政治(初政混沌時代)、第 3 編が第二期の政治(県会創設時代)となっています。

■『綱要石城郡町村史』　昭和４年(1929) 10 月

『綱要石城郡町村史』は、昭和 4 年(1929)10 月、郷土社を発行元として刊行されます。諸根の既刊の『磐城文化史』と『磐城史料図版集成附磐城史概論』に続くシリーズのものです。前年の暮に諸根の家が延焼になる時に、諸根の郷里の「勿来庵」に原稿を置いていたため、難を逃れたものです。

旧磐前・磐城・菊多郡の町村の成り立ちがまとめられています。跋文を草野順平と諸橋元三郎が書いていますが、共に諸根の災害に対しての同情と今後の支援を強く書いています。

■展示資料

雑誌「郷土文化」創刊号・４巻９号・４巻 10 号・5 巻１号
新聞「新いはき」7 号・8 号・14 号
研究雑誌「名古曾」昭和５年３月号・昭和５年６月号・昭和５年 11 月号
普及雑誌「勤王」　創刊号・第２巻１号・第２巻２号・第３巻１号・
第４巻８号・第５巻５号・39 輯
『磐城文化史』
『磐城史料図版集成附磐城史概論』
『福島県政治史(上)』
『綱要石城郡町村史』

■参考図書

永山義明「諸根樟一著作並論文目録」
『いわき地方史研究』第５号　昭和４３年６月
永山義明「諸根樟一小伝(第一回)　一郷土史家の歩いた道」
『いわき地方史研究』第６号　昭和４４年３月
永山義明「諸根樟一小伝―その二―」
『いわき地方史研究』第７号　昭和４４年１１月
永山義明「諸根樟一小伝―その三―」
『いわき地方史研究』第８号　昭和４５年９月
『いわき市史』６巻「文化」昭和５３年１１月　いわき市
『いわきの人物史』(下)「諸根樟一」　　平成５年　いわき地域学会

いわき総合図書館　地域資料展示コーナー　平成 22 年度後期常設展示

いわき郷土研究の先駆者・諸根樟一と三猿文庫

編集・発行　いわき市立いわき総合図書館
発行日　　平成２２年１０月４日
会　期　　平成２２年１０月４日―平成２３年３月２７日